

# ニュータウンにおける共同性の形成とその分析

## －越谷レイクタウンを事例に－

近年、急速な都市部の人口増加に伴い、都市の成長や住宅需要の増加が顕著となり、これに対応する形で、都道府県において多くのニュータウンが計画・建設されている。しかし、ニュータウンでは、高齢化や住宅の老朽化によって起こるオールドタウン化のリスクが生じており、地域社会の結びつきを維持し、発展させるための新たな取り組みや政策が求められている。本研究では、ニュータウンである越谷レイクタウンを事例に「共同性」の形成が地域社会の持続可能性にどのような影響を与えているかを明らかにした。

「共同性」とは共同体（コミュニティ）に備わっている性質を指し、共同体は地域社会や共同社会を形成する上で基礎的な要素となっている。また、「共同性」は共同社会と結びつき、共通の地域や信条・関心を共有する人々の集まりに関する概念である。そのため、「共同性」という共同で生きる社会が形成されなければ、共同体は生まれにくい。その結果、地域の活力低下が生じ、ニュータウンのオールドタウン化へと繋がる可能性がある。

越谷レイクタウンにおける「共同性」は地域イベントや自治会活動に起因し、これらが住民のコミュニケーションの促進や地域への愛着を育む効果があった。また、異なる世代の交流が活発で、多様性が擁護される中、地域活動の推進、地域資源の活用、世代間交流の促進を行い、これがニュータウンの再生に貢献する可能性が示唆された。これらの提案を実現するには、地域の条件や住民の要望を考慮し、柔軟な調整が必要である。地域住民の参加を促し、誇りを持てる環境づくりを目指すことで、質の高い生活環境、住民の満足度向上に繋がると期待ができる。